

令和5年度 調布市立第六中学校 学校評価報告書（学校長 佐伯 あつ子）

学校の教育目標		
○自ら学び、考える生徒 ○命を大切にする生徒 ○何ごともしっかりぬく生徒		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
○「自ら学び、考える生徒」→ 魅力ある授業を展開し、学習満足度と学ぶ意欲を向上させる学校		
○「命を大切にする生徒」 → 人権感覚を醸成し、道徳性を養い、自他の生命を尊ぶ心を育成する学校		
○「何ごともしっかりぬく生徒」→ 安全教育、キャリア教育を充実させ、自分の生き方を豊かに思い描ける力を育成する学校		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①人権教育、道徳教育の全体計画、及び年間指導計画の策定・改善（通年）、道徳教育推進教師を中心とした「特別の教科道徳」の授業の充実（年 35 回）	B	①少人数・習熟度別指導（1～3年数学・英語）、読書活動（毎日）、読書週間（2回）、数学ステップアップ教室（10 回）、漢字・英語検定（3回）、英検直前サポート（6回）	B	①体力向上週間（3月）の取組、部活動加入率（90%以上）	B
	②全教員による巡回指導（毎朝・通年）、六中いじめ防止対策基本方針、SNS学校ルール、生活アンケートの実施（毎月）、「SOS の出し方」授業、不登校を未然に防ぐ支援（SC、個別学習室の活用）	B	②校内研修会（授業改善、I C T、特別支援教育等）、特別支援の視点での環境・授業づくり、生徒による授業評価（全教科3回）、学校公開（通年）と保護者アンケート	A	②1 年防煙講演会（3月）、3 年薬物乱用防止教室（3月）、食育（通年、給食便り）、食物アレルギー事故防止研修会、S C による全員面接・自殺防止授業（1 回）いのちの安全教育（1 回）	A
	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	①教員の人権感覚（言葉遣い等）についての生徒の肯定的意見 9 割以上、保護者 8 割	A	①少人数指導では授業アンケートの肯定意見が 9 割であるが、家庭での読書週間が 6 割を切っている。英検サポートは参加生徒に好評である。	B	①部活動加入率は 9 割である。体育的行事へ積極的参加度も肯定的意見が 9 割を超えている。	A
学校関係者	②いじめアンケート（月 1 回）は、SOS の出し方として定着しているが、気軽に相談できる先生がいるかとの肯定的意見は 7 割を切り課題である。	C	②授業評価アンケートを工夫し、教員ごとに集計、比較して活用している。生徒による授業満足度は肯定的が 9 割以上である。	A	②安全指導による危機管理意識や基本的な生活習慣の定着に関しては肯定的意見が 8 割以上である。	A
	心の育成に主眼を置き、よく取り組んでいる。アンケートの「気軽に相談」という表現が、意図が伝わりにくいので改善する必要がある。ただ、課題として捉えて取り組むことは良いことだ。		対話的で協働的な学びは良く取り組んでいる様子が見られる。デジタルの良さは情報共有や手間を減らすことでもあるので、相互観察や思考のプロセスなどが見えるICTの活用を進めてほしい。		体力の向上について、遊びの中から自然に体を動かすことの楽しさを感じさせると良いのではないか。面白がる、頑張ってた良かった、という経験が、体力の向上に向かうのではないか。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4 キャリア教育と特別支援教育		5 家庭、地域、関係機関との連携		6	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①指導計画の改善（5月末）、検証（2月）就職支援ナビゲーター授業（9月）、人権・税の作文への参加（8月）、租税教室（7月）、消費者教育（1 回）	B	①地域学校協働本部との連携協力（通年）、数学ステップアップ教室（10 回）、英語検定直前自習サポート（6 回）、CS 開始に向けた準備	A	②	
	②校内委員会（年 2 6 回）	A	②		②	
	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	①自分の将来や進路について考える時間があるかとの肯定的意見は 2・3 年生は 9 割を超えているが、1 年生は 6 割を切っている。	B	①すべて計画通りできた。地域協働本部には、学校の方針をよく理解していただき、今年度も絶大なる支援を受けた。	A	①	
学校関係	②計画通り充実した会の実施ができた。	A	②		②	
	キャリア教育について、来年度の取組に期待したい。校内委員会は回数も内容も相当よくやっていて、様々な情報共有や手立てが考えられている。		地域学校協働本部としては、いつもこれがベストではないと認識し、より良いものを模索している。卒業生の関りも見られ、発展させたい。			

人材育成・組織運営	
自己評価	①全教員に「資質の向上に関する指標」を示し、自己申告の面接時に各自のキャリアプランを踏まえた到達目標を立てさせる。（年度当初） ②全校で OJT 体制を構築して相互育成の雰囲気を作るとともに、主任選考や外部研修を促し、ミドルリーダーの育成を図る。（通年） ③管理職候補者を育成するために、業務の改善を図り、学校経営への興味と希望がもてるような言動を意識し、随時面談を行う。（通年）
学校関係	自分の教師としての考え、時代の流れ、地域性など、意識しなければならないことは様々あるが、その時々でどこを強化していくのが良いのか、しなやかな判断ができる教員になってほしい。また、教員が何を大切にしているのかを、しっかりと発信してもらえると、学校に協力しやすくなる。六中の教職員の良さを、引き続き大事にしながら、引き伸ばしてほしい。

中期的な経営目標の達成状況	
教師の人権感覚（言葉遣い等）、および魅力ある授業づくり（授業の工夫等）に関しては、生徒の肯定的な意見がどちらも 9 割を超え、「学校に行くのが楽しい」は生徒・保護者とも肯定的意見が 8 割を超えている。基本的な生活習慣も身につけている生徒が多い。また、地域学校協働本部の果たす役割が大きく、様々な活動に対して参加生徒・保護者の支持的な意見が多数寄せられている。教職員の実態は、働き方改革を進めながらも何事も前向きに取り組み、研究・修養に励んでいる。ミドルリーダーや管理職候補者を中心とした OJT が常時展開されている職場である。	
次年度の重点課題	
いじめや問題行動への対応は迅速・的確を信条に、対象生徒・保護者との連携も取れているが、問題がないときや小さなことでも話や相談できると感じていない生徒が多いことが懸念される。次年度からの調布市研究推進校としての取組に向け、温かな人間関係を大切にした学級経営を基盤として、生徒たちの未来につながる魅力ある授業をさらに探求していく。	

